

2010年度 関西学院高等部 学校評価を終えて

関西学院では、学校教育法の改正を契機として初等部・中学部・高等部が互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価（以下、自己点検・評価）を実施する制度を構築してきました。

その第3回目である2010年度からは上記の組織以外に幼稚園も学校評価に加わり、世界市民を育成するという同じ目的を持つ関西学院の共同体として、いくつかの共通した評価項目を選択し、さらに一貫教育の繋がりを深めつつあります。

また今年度から学校関係者評価制度が導入され、高等部内の自己評価に対して、教職教育研究センター教員、初等部長、中学部長、評価情報分析室教員から客観的な評価、指摘をいただきました。これもまた一貫教育の特色そして長所の一つであります。同じ学校法人にありながら、大学、中学校、小学校といった年代の異なる生徒の教育に関わっておられる見識ある方々にいただいた評価や指摘は、今後の高等部教育発展の糧になると確信しております。

それぞれの組織が共通の評価項目として、学校評価ガイドライン（文部科学省、2008年1月31日付）で示された12項目の中から、「教育課程・学習指導」「生徒指導」「安全管理」を選び、さらに高等部は独自項目として、「保健管理」「進路指導」「キリスト教主義教育の実践」「教科以外の生徒活動」を加えて実施しました。2010年度の実施にあたっては、それぞれの評価項目について生徒・保護者・教員のご意見を伺うためにアンケートを行い、客観性を高める工夫をいたしました。

回答いただきましたアンケートの結果を集計、分析したものを参考に自己点検・評価結果をまとめ、それを学校関係者に評価していただき、さらにその評価に対する追加記述を行っております。自己点検・評価結果、学校関係者評価、追加記述をまとめ、関西学院評価推進委員会（2011年3月25日）において承認されましたのでホームページ上で公表いたします。

今回もアンケート冒頭で質問した「学校生活の楽しさ・満足度」については、生徒・保護者の多くに肯定的評価をいただきましたが、その他の質問を通じていくつかの課題も浮かび上がって参りました。関西学院高等部はこれからも自己点検・評価を通じて自らの課題を探り、その課題に誠実に向き合って、改善することによって質の高い教育を生徒に提供し、またその結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2011年3月25日

関西学院高等部
部長 澄田 新

学校評価シート

【教育課程・学習指導】

現状の説明

教育課程の内容説明は、生徒に対して各学年とも年度始めに進級・卒業・推薦という3年間の流れを踏まえた上で、当該学年に行うプログラムの骨子を説明している。保護者に対しても1年・3年は年度始めに、2年生は2学期に説明を行っている。

また1・2年生には「社会の各界で活躍する先輩」を招き、進路に関する啓発を行う。その上で最終学年には、目の前に迫った大学進学 of 学部決定の参考となるよう、大学から先生や卒業生を招き、学部の紹介を行っている。また選択授業において1学期・2学期とも各学部の入門講座を設定し、複数受講できるようにしている。

学習指導に関しては、1年生次に数学、2年次に英語の習熟度別授業を展開している。また2年生からはコース制を導入し、3年次には選択授業や高大連携プログラムを行うなど高度な内容の講義に触れる場を設定している。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教育課程の説明（進級・卒業・推薦）に関しては、教員・保護者・生徒ともに78%超の肯定的な高い評価が得られている。特に生徒は関西学院大学への推薦にいたる過程を理解し、自分の進路について考える機会（講演など）が与えられたと感じている。

また73.5%の生徒は「興味深い授業内容がある」と答えている反面、「全体にわかりやすい授業がある」という項目には肯定的な意見が54.5%と低くなるのも特徴といえる。しかし「授業を通じて学力がついている」「学力・体力は的確に評価されている」という項目では、生徒・保護者とも62%以上が肯定的に受け止めている。

さらに「補習などは適切に行われている」という項目では、教員側の判断が87%超と高いのに対し、生徒は肯定的な意見が57%という数値に現れ、満足していないことがわかる。

改善の具体的方策

従来行ってきた「進級・卒業・推薦に関する説明会」は、概ね保護者・生徒から理解されていると判断して良いが、さらに細やかな情報伝達を行うよう心がけたい。特に実例を挙げながらの説明が保護者・生徒への理解向上につながると考える。

対策が必要なのは「全体的にわかりやすい授業がある」に対して、否定的な意見が多く散見されたことである。これらの具体的な内容を聴取するために、生徒から授業に対するアンケートを実施し、「わかりにくさとは何か」を知り、改善できることには取り組む姿勢が必要である。ただ「興味深い内容がある」という項目が、内容的に「高度なものに触れることによって学問探求心に目覚めた」ということと、「教員の説明が上手いため理解しやすく興味が高まった」のかの違いも聴取し、「わかり易い授業＝安易な内容」とはならないように努めたい。いずれにしても教員の授業内容向上に向けて、その質だけでなく手法の向上にも取り組めるよう、教員同士の授業見学などを導入したい。

学校関係者による評価

「進級・推薦・卒業等に関する説明」では、保護者、生徒共に満足度は高いですが、「外部テストの活用」、「授業を通じての学力の定着」、「授業のわかりやすさ」、「補習」の項で、保護者、生徒共に評価点が低いのが気になります。大学ではFDの一環として受講者評価を実施していますが、授業に対する受講者の評価（自由記述等）で新たに気づかされる点も多くあります。

大学のように毎年実施する必要はないとは思いますが、何年かに一度、こうしたことを実

施するのも、授業改善に向けて、また「改善の具体的方策」で記されている「わかりにくさとは何か」を知る上で、意義があると思われます。

「進級・卒業・推薦に関する説明会」が、教育課程・学習指導の項目の中で、重要な項目として位置づけられ、教職員から肯定的で高い評価がされています。ただ、生徒2年次での「説明会」へのもう少しの満足度の高まりが期待されます。

授業の改善は、教員にとって日々の課題であり、終着点のない課題ですが、高等部にふさわしい「わかりやすい授業」を続けることが望まれます。

改善の具体的方策で指摘されている通り、「全体的にわかりやすい授業が多い」という質問に36%が「あまりそう思わない」と答え、また「補習などは適切に行われている」かに対して31.9%が「あまりそう思わない」と答え、「思わない」を含めると45.5%と43%となっています。

レベルの高い興味深い授業が行われていますが、その核心まで学べていない生徒自身のジレンマが出ているのではないのでしょうか。生徒から授業のアンケートを取り、その理解できないことがどこにあるかが個々の教科・科目で検討されていることは、その問題の改善となっており評価できます。

受験というものが無い環境で、いかに授業の質を向上させて興味を持たせ、生徒たちに学力が上がっていると実感させるのは難しいし、同様に保護者に対して、子どもの学力が上がっていると認識させるのも至難の業であろうと思われます。そんな中で、学校生活が楽しく、授業が興味深いとの回答もやや多いのは、評価して良いと思われます。英語分野のGTECのみならず、他の教科においても、公立学校の生徒と比べて、自分の学力レベルを測る機会がもしあれば、生徒達にとって自信にもつながると考えます。

教員に対するアンケートでは各質問について概ね高い評価が得られていますが、生徒に対するアンケートではそれらに関して必ずしも高い評価が見られず、そのような乖離が気になるところです。しかしながら、「改善の具体策」にも記載されているように、わかりやすい授業ということでレベルが低下することのないように留意すべきでしょう。そうでないと、一部の大学で生じているような負のスパイラルに見舞われることとなります。また、選択授業や補習などがあまり評価されていない点に改善の余地があるのではないのでしょうか。

「全体的にわかりやすい授業がある」に対して、否定的な意見が多く散見されたことに対しての今後の改善の取り組みに期待いたします。

高等部ではコース制をとられておりますが、その評価はいかがでしょう。また、高大連携についての評価はいかがでしょう。

現状の説明をもう少し詳しくされれば、より良いものになると思います。また、現状説明では進路指導の項でのことも含まれていますので、教育課程・学習指導についての記述を整理されると良いと思います。

具体的な方策として、アンケートを実施されるとのこと。取り組みに期待します。

「授業を通じて学力がついている」「学力・体力は的確に評価されている」という項目では、生徒・保護者とも62%以上が肯定的に受け止めている、とする分析は6割以上であるから肯定的なのではないでしょうか。

「補習などは適切に行われている」に対して生徒が満足していないとの分析がありますが、その具体的な方策が示されていません。

学校関係者による評価を受けての追加記述

やはり、生徒から「全体的にわかりやすい授業がある」に、否定的な意見が多く散見されたことに対して改善が急務である。教育内容の水準を落とさず、より生徒が理解できる手

法を検討したい。

また「補習などは適切に行われている」に対して満足していない生徒の要望を、アンケートで聴取し対応していきたい。

学校評価シート

【進路指導】

現状の説明

1 学年約 300 人いる生徒のうち、関西学院大学に推薦入学する生徒が毎年 9 割を超えている。そのため、3 年次における進路指導関係の学校行事はその多くが内部進学を意識したものになっている。大学案内『空の翼』をはじめとする各種資料配付や 3 年生進路シートの作成、関西学院大学主催のオープンキャンパスへの参加、関西学院大学による学部説明会や関西学院大学在学の OB による学部紹介、関西学院大学に進学する生徒の保護者説明会などが毎年実施されている。また、定期的に進路希望調査を行い、内部進学者の学部別の志望者の推移を適宜把握し、結果を掲示することで生徒の学習に対する意欲を大いに高める結果にもつながっている。

一方、他大学受験を希望する生徒は毎年 20 名程度で、センター試験の出願手続きなどの事務的な処理以外は、きめ細かい受験指導や志望校選択のアドバイスを学校が十分には行っていない。従って、外部受験を志す生徒は主に予備校や塾に通い、受験本番まで実力をつけていく生徒が多い。

1、2 年生については、1 年生は 3 月初旬に、2 年生は 1 月中旬にそれぞれ高等部 OB による進路講演会を実施し、進路意識の向上を図っている。また、各学年とも春休みに年間振り返りシートを課題として作成させ、自分の成長の跡を認識し 1 年間の学びを省みることで、次年度の学校生活に目的意識をもたせる工夫を行っている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教員アンケートの質問 31「学校は、進路講演会、学部説明会等が実施し、進路理解のための様々な情報を提供している」、32「学校は、保護者会、保護者面談等を利用し、定期的に進路情報を提供している」、33「学校は、進路希望状況を適宜把握し、円滑に指導が進むように提供をしている」では肯定的な意見が 9 割以上あり、やはり内部推薦を意識した指導がある程度確立され、安定的に実施されている現状が確認できたと思われる。この点に関しては、生徒の質問 25「進路講演会・学部説明会等を聴いて、進路指導のための様々な情報を受けている」、28「学校は、学部説明会の実施やオープンキャンパスへの参加に関して、大学と連携・協力を図っている」の結果でも全体の 7 割近くが肯定している。学年が上がるにつれて進路関係の学校行事も増えてくるので恐らく 3 年生の肯定的な意見はもっと高いのではないかと考えられる。

これに比べて、教員アンケートの質問 34「進路コーナーが設置され、進路情報誌や大学案内をはじめとする様々な情報を得ることが可能である」、35「生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある」、36「計画的な指導体制が整い、それによって指導がなされている」と生徒アンケートの質問 26「進路コーナーにある進路情報誌や大学案内によって、進路に関する様々な情報を得ることが可能である」、27「生徒一人ひとりが自分の興味・関心に応じた進路指導選択を行うことができる」では肯定意見が 6～7 割前後となっており、生徒一人ひとりの個性や適性に合った綿密な進路指導が計画的になされている点でさらなる改善の余地があるのではないかと。

改善の具体的方策

今回のアンケート結果を踏まえた上で改善の具体的方策としては、

- 3 年間の進路指導計画表の生徒への発信
- 3 年間の進路指導計画表の保護者への発信

生徒や保護者への進路関係の情報発信としては、高等部生徒ハンドブック P. 28 に「進路指導について」という記載があるだけで、その他特に生徒に体系的に進路指導につい

て説明する機会はない。特に1、2年生については年に数回、進路行事が用意されているだけである。従って、事前に生徒・保護者に対して高等部3年間の進路指導計画を明示し、各行事の位置付けや重要性を理解した上で行事に参加させることも必要と考えられる。

- 進路コーナーの充実
などが挙げられる。

学校関係者による評価

- 「進路指導」に関しては、生徒の約9割が関西学院大学に進学するということから、概ね良好に機能していると言えます。ただ、今日「就職超氷河期」といわれ、大学生の就職が困難な時代であることから、学部選択ばかりでなく、キャリア教育の一環としての進路指導という観点からの取り組みも重要となります。具体的には、大学のキャリアセンター等との連携による生徒への情報提供やキャリア意識の喚起等も、今後考えていくべきではないでしょうか。
- 関西学院大学への推薦入学という点では、進路講演会等を開催し、進路意識の向上が図られており、成果を上げていると考えられます。生徒一人ひとりの進路意識に対応できるよう今後も工夫を重ねることが望まれます。
- 関西学院大学への進路指導について、生徒、保護者とも高い評価が出ている中、さらに①3年間の進路指導計画表の生徒・保護者への発信、②進路コーナーの充実を目指す姿勢を評価します。具体的にどのような資料が提供されることを生徒は望んでいるかが提示され、特に②に関して、その対応策が示されると改善が明確となります。
- 進路講演会や学部説明会の実施は評価できると思います。生徒一人一人に応じた進路選択の支援体制に関しては、教員側のポイントを見ると、まだまだできることがあるのではとの教員の思いが感じられます。生徒たちが、将来への明確な目標を見つけることができれば、おのずと授業や部活動に向かう姿勢にもさらに良い影響が出ると思われます。大学との連携を含めて、今後のより一層のプログラム開発が望まれます。
- 概ね目標は達成されているものと考えられますが、個々の生徒について最適な進路指導が今以上に行われることが望ましいと考えられます。「生徒一人ひとりの個性や適性に合った綿密な進路指導」は困難なことです、少しでも良い結果が得られるよう期待します。
- 教員アンケートの質問13「高等部は、大学・学部と適切に連携を図っている」や質問37「大学との連携・協力体制が整い、指導が行われている」に対する肯定的な評価は高くありません。このことは進路指導上好ましくないと思いますがいかがでしょうか。
- 他大学を志願する学生へのきめ細かい受験指導や志望校選択のアドバイスを学校が十分には行えてはいないことはやむを得ないとはいえ、問題であると思われます。
- 改善の具体的方策に示されている「3年間の進路指導計画表の保護者、生徒への発信」の成果を期待いたします。

学校関係者による評価を受けての追加記述

卒業生のほとんどが関西学院大学に推薦され入学するという現状を考えると、高等部では受験指導や就職指導にとどまるのではなく、長期的な視野・広い観点にたった進路指導が実現されるべきである。そのため、高等部における進路指導は生徒自らが自分の将来を見据えた上で、自分にとって最適な進路を見だし、それをどのようにして実現に結びつけていけばよいのかを理解し、実行させるといった、「生き方指導としての進路指導」を目標としている。高等部生活3年間にわたる授業での学びに加え、礼拝、人権講座、学校行事、学友会活動、クラス活動などを通して、自分に関する適性、特徴、興味、関心、その他いろいろな

事を見つけたし（自己発見）、自分自身をしっかり理解（自己認識）し、将来までを視野に入れた最適な進路選択を自分の意思で行うこと（自己決定）ができるようになることが大切である。さらに、卒業後も常に目的意識をもって何事にも積極的に取り組もうとする姿勢を維持することができるよう、自ら“学ぶ力”、人生を“生き抜く力”につながる基礎力を身につける指導を目指している。それを実現するひとつの方法として、キャリア教育は非常に有効であると思われる。

生徒や保護者に発信する進路関係の情報としては、まずは高等部進路指導年間計画表の配付があげられる。それ以外については、4月に1、2年生で実施される実力テスト（スタディサポート）の学習状況リサーチ学校独自アンケートにて生徒が望む情報を的確につかみ、発信していく。

指摘にある通り、教員アンケート結果をみると、大学や学部との連携においてさらなる改善・向上が期待できると感じている教員もいるようである。この点については現状に甘んずることなく、大学とのより良い関係作り、教員間の共通理解と意識の共有などを強化していく。

最後に他大学受験者への指導について、指定校推薦やAO入試受験者に対しては、出願書類作成のアドバイスや模擬面接試験の実施などで概ね学校としての役割は果たしている。一般入試受験者に対しても、希望する者には一定の指導は可能であるが、「現状の説明」でも記述した通り、殆どの者が予備校や塾に通っているため、受験校の決定やアドバイスなどを学校以外で受けているという結果につながっている。しかし、他大学を目指す者にとっても、高等部の特色ある授業（読書、情報、選択授業など）をはじめとする様々な授業を受講することで、大学入学後に必要になる能力や知識の習得がなされているという点では、有効な進路指導が行えていると考えることもできる。

学校評価シート

【生徒指導】

現状の説明

近年の社会環境の変化は、子どもたちの生活環境にも様々な影響を与えている。このような社会環境の変化の要因は、多様化した社会構造の価値観の変化や情報化社会の進化が考えられる。

その生徒を取り巻く社会構造を急変させた最たるものはインターネットの普及であろうと考えられる。そして、そのインターネットから情報を得る手段がパソコンから「携帯」へと変化してきていることも生徒指導上注目していかなければならない。

評価・分析（アンケート結果を含む）

生徒指導に関する評価は、教職員では「学校生活の尊重」「規範意識の涵養」「問題行動への対応」のすべての小項目において80%以上が肯定的な回答をしているが、（質問16・ルールやマナーの明示）49%、（質問15・基本ルールを適切に指導）の2項目が問題を提示している。

保護者では、すべての項目において肯定的な回答をしているグループと、どちらかといえば否定的なグループに分かれている。このことから、教員とのコミュニケーションが十分に取れているグループと、そうでないグループが存在していることが考えられる。

また、生徒では教職員・保護者以上に回答にばらつきがあり、生徒指導に対して様々な思いを持つグループがいることがわかる。特に小項目「問題行動への対応」では教員が80%以上の肯定的な回答をしているのに、生徒は45%以上が否定的な回答をしている。このことは教員が把握できていない事象が多々あることを物語っているようである。

改善の具体的方策

生徒指導とは、「生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現できるよう指導・援助を与える」ものであり、このアンケート結果を踏まえ、きめ細かく生徒とのコミュニケーションを図り、同時に保護者との連絡を密にして、より深く注意・指導を与えていかなければならない。

具体的には、生徒の行動に目を向け、意見に耳を傾け、声をかけ、相談に乗る時間を作る。また、保護者からの相談に応じるだけでなく、保護者に対しての連絡を頻繁に行う等の配慮が必要である。

また、インターネットを取り巻く様々な問題「プロフ」「ブログ」「ミクシー」「ツイッター」などに対応するため、教員は研修・学習を重ね、時代に即した指導を心掛けていく必要がある。

さらにはアンケートの結果を踏まえ、守るべき学校生活のルールやマナーを教員が一丸となって指導を繰り返し、生徒に周知徹底することが必要である。

学校関係者による評価

○社会全般に規範意識の希薄化がみられるなかでの生徒指導は大変であるとは思いますが、守るべき学校生活のルールやマナーを明確にし、それを守らせることは、生徒の社会性を育てるという意味においても、教員に課された重要な責務の一つです。研修等を通じて教員間にこの問題に対する共通認識を醸成し、解決に向けての具体的な方策を打ち出す必要があります。

また今日、「学校裏サイト」「ネットいじめ」等、ネットを介した「いじめ」が問題視され、こうした問題への対応についても様々な領域からの研究の蓄積がみられます。「いじめ」

の問題は人権に関わる大きな問題であることから、今後学校全体でこの問題に取り組むことが求められます。

- 生徒指導の項目を全体的に概観すると、満足すべき水準には達していると思われませんが、やはり、もう少し努力、工夫が求められる点も、生徒へのアンケート調査結果に見られます。「(質問 16・ルールやマナーの明示)」、「(質問 15・基本ルールを適切に指導)」の 2 項目は、どの高校でも、指導の難しい項目であり、いっそうの指導上の工夫が求められるでしょう。
- 学校のルール、マナーについて、また問題が起こった際の適切な対応について、生徒・保護者とも理解を示すものと否定的にとらえる者にと二分されることは起こりうることで、評価・分析にあるように、学校(教員)と生徒・保護者との十分なコミュニケーションが取れていない層のあるのも事実です。
この現実を改善していくには、学校全体の姿勢を機会あるごとに明確に示し続けることと、個々の場合にきめ細かな相互の話し合いがなされることしかありません。改善の具体的方策に記された文章の中に学校の姿勢を評価します。
- 守るべきルールやマナーのポイントが教員、生徒含めてやや低く感じるのは、逆にお互いもっときっちりしたい、しっかりした学校にしたいとの思いがあると考えられます。自由の意味をはきちがえずに、校外での生活マナーや、清掃活動、ボランティア活動など、運動部単位でも良いし、目立たないことからでも構わないので、今以上に取り組むことが求められると思います。
- 教員、保護者および生徒のより密接なコミュニケーションを実現し、そのことにより「教員の把握できていない事象」をできるだけ少なくするための努力を行うことが必要でしょう。さらに、時代を反映するさまざまなことに対応することが要求されます。
- インターネットに関し現状および改善の具体的方策で示されていることは好ましいですが、それに対する評価・分析はいかがでしょうか。
- 生徒に対する質問 14「守るべき学校生活のルールやマナーがはっきりしている」に対する否定的な回答は 55.5%あります。これが曖昧だと生徒指導が効果的に行えないのではないのでしょうか。

学校関係者による評価を受けての追加記述

守るべき学校生活のルールやマナーを周知徹底するための具体策として、4月最初の教師会において生徒ハンドブックの学校生活のルールを確認し、指導のポイント・報告ルート等のマニュアルを確認する。生徒に対しては、学年オリエンテーションで学年全体に生徒指導部からルール・マナーを伝え、なおかつクラスホームルームで担任から再度のルール・マナーの伝達を図る。

インターネットを取り巻く様々な問題に関しては、本年度も1度実施したが、来年度は7月の講演日を生徒指導の時間とし、ネット犯罪等の講習を講師からしてもらうように計画中である。

保護者に対しては、機会があるたびに学校側の指導方針・指導内容等を解り易く伝えていく。

学校評価シート

【保健管理】

現状の説明

生徒が健康で安全な学校生活を送れるように、「健康診断」を実施し、その結果により事後指導・管理を行うとともに、日常の「疾病や怪我に対する適切な処置」を行うよう努めている。また、「健康相談」を実施し、生徒の心身の健康問題について、関係者と連携をとりながら問題解決のために支援や対応をしている。

保健・衛生に関する情報を提供し、生徒自らが健康生活を実践するために「保健便り」を発行している。

教育環境を整えるために、外部業者による「学校環境衛生検査」を定期的実施し、教室内の「換気及び保温」や「採光及び照明」等の状況を把握し、必要に応じて改善を図るよう努めている。

評価・分析（アンケート結果を含む）

「健康診断」の実施と事後指導、「怪我や疾病の対応」については、教員・保護者・生徒いずれの評価も高かった。「健康相談」については、養護教諭・カウンセラー・教師間の連携はとれており、保護者の評価は高かったが、生徒の評価はやや低く、学校において自分の悩みを相談する場（相談する相手）が不十分であると判断できた。

「保健便り」を通して、保健・衛生に関する情報を提供しているが、生徒の評価で肯定的な意見は59%で、41%の生徒が「あまり役に立っていない」と感じていることが分った。

「学校環境衛生検査」の評価は高く、今後も継続して実施し、状況把握と必要な改善に努めていきたい。

改善の具体的方策

「健康相談」で、生徒にとって相談しやすい環境を提供するために、今後さらに、カウンセラー・教員間で情報交換や連携を図りながら、生徒の心身の悩みに対し相談できる体制を整えることが必要である。具体的には「健康相談日」を設けて、時間と場所を確保したい。また、様々な事例を研究し専門医の見解を聴講する等により、教員の生徒理解力を深めていきたい。

「保健便り」の活用について、情報提供が一方通行にならないように、生徒が興味関心を持てるような内容を検討していきたい。また、保健の授業やHRで読んでもらう等、内容をより理解できるように工夫したい。

学校関係者による評価

○「学校環境衛生検査」の評価が高いことから、「換気及び保温」や「採光及び照明」等の教室環境の面は良好であると評価されます。今後は、発達障害等の特別の支援を必要とする生徒の入学も考えられることから、生徒の「学校には心身の健康について相談する場がある」の評価が低い点は気がかりです。LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/他動性障害)、高機能広汎性発達障害等を含む、多様化する生徒への支援体制を、早急に検討する必要があります。

○教育環境を整えるために、定期的実施している外部業者による「学校環境衛生検査」は、取り組みとしては、基礎的な教育条件の整備として評価されます。

○高校生にとって心身の健康は重要な関心事であり、学校・教員サイドからの不断に対応の求められる課題です。この点から考えると、「保健便り」の活用について、内部評価では、必ずしも効果が高いとは評価されていません。こうした学校・教員からの保護者・生徒へ

の情報の提供は、一般的に高い効果が表れにくいといわれますが、今後、単なる配付というレベルではなく、活用の具体的な方策等の提供も、求められるでしょう。

- 保健管理全般について、教師・保護者・生徒において全体としては評価されています。
- 保健便りが、生徒にとって「あまり役に立っていない(41%)」についての具体的方策として生徒が学校の保健便りに何を求めているかを生徒の話し合いの中から聞き取ることも方法です。
- 健康診断や感染症予防など、学校としてはしっかり対応しているし、高く評価できると思います。今後も、高校生特有の心の健康についても、生徒たちが気軽に相談できる体制をより充実させることが期待されます。
- 保健管理に関してさまざまなことが行われ、教員、保護者、生徒からその意義が認められていることは評価できます。ただ、気になることは、「心身の健康について相談する場所がある」という質問に対して、かなりの生徒が肯定的でない回答をしていることです。したがって、そのような場をいま以上に確保することが望まれます。また、「保健便り」はないよりはあった方が良いでしょうが、いま一度その意義も含めて再検討すべきではないでしょうか。
- 「学校環境衛生検査」の評価は高いとのことですが、どのように高かったのでしょうか。
- まだ先かかもしれませんが、共学化に向けた保健管理はどのように考えておられるのでしょうか。中学部との連携も必要ではと思われまます。
- 「健康相談日」を設けることは好ましい取り組みと思われまます。
- 具体的な方策として、健康相談日を設けるとのこと。取り組みに期待します。

学校関係者による評価を受けての追加記述

年度初めに実施している健康診断は、保健管理の一つとして、短時間に効率よく進行することに重点を置き、実際スムーズに進行できていたが、管理から教育の視点(=発達の視点)に着目し取り組みたい。

具体的には、①健康診断の前後に「保健便り」を発行し、生徒自らの健康認識を深める。②健康診断の多くの場面や結果を、保健体育の授業につなげる。③保健室をからだの教室として活用し「健康相談」の場として開かれた環境を整える。④健康診断結果から見えてくる健康課題を、学校の教育課題として取り上げていく。

以上の4点を取り組むにあたっては、学校医、他の教職員、保護者の協力も必要であり、それらの人々をつないでいく役割は保健室(養護教諭)が担っている。とくに、次年度より中高の保健室はひとつになることから、保健室で関わる生徒の発達段階や個別性なども考慮し、心身の健康に問題のある生徒の支援体制を確立するため、既に保健委員会及びカウンセリング委員会で進めている。

学校評価シート

【安全管理】

現状の説明

学校内外での安全管理においては、特に登下校時の自転車事故についての報告を多数受けている。報告義務のない校外での事故ということを考え合わせれば、相当数の事故が発生していることが考えられる。

また、校外においても「携帯」を取り巻く問題に対処しなければならない事象がいくつか発生してきている。

校内への不審者侵入防止や防犯のために校舎出入口に防犯カメラを設置し、校内を巡回する警備員を配置しているが、明らかに校外からの侵入者によると思われる事件・事故は発生していない。

評価・分析（アンケート結果を含む）

安全管理に関する評価では、校舎内における安全管理において教職員は90%以上、保護者は85%以上、生徒は70%以上が肯定的な回答をしている。生徒の回答において、否定的な回答が増えているが、このことは、自分の期待する対応と実際の教職員の対応にずれがあるものと考えられる。

校舎外における安全管理においては、すべての項目において教職員・保護者・生徒ともに不安を感じさせる評価がなされた。特に登下校時の安全の項目で生徒の否定的回答には、通学路の安全が確保されていないことを感じさせる。また、防犯カメラや巡回警備員が防犯の役に立っているという実感も乏しいようである。

改善の具体的方策

校舎内の安全管理では、特に生徒のケガや体調不良への対応をすべての教職員が共通認識を持ち丁寧に行う必要があると思う。

また、ケガをした生徒を適切な医療機関に搬送するために情報を収集することも必要であると思う。

校舎外における安全管理では、自転車・歩行者が安全に通行できる通学路を確保することが重要であると思う。また、自転車通学者に対する道路交通法規の情宣も定期的に繰り返す必要があると思う。

高等部が開かれた学校である以上、様々な人の出入りに対して防犯カメラや巡回警備員の配置は必要不可欠であるが、教職員が日々校舎の状況に目を配り、生徒に対しても教室の施錠や貴重品の自己管理の徹底を注意・指導していく必要がある。

学校関係者による評価

○教員、保護者、生徒共に、学舎内での安全管理への評価は良好であり、満足できる結果と言えます。しかし、安全に通行できる通学路の確保等、学舎外での安全管理にはまだ問題点が残されています。登下校時の見回りや指導等も今後の課題と言えます。

○学校内外での安全管理に関しては、一般的には、生徒の生命に関わる問題であり、最善というレベルはありません。いかに高校として不断に安全管理に力を注いでいるかが問われています。校内への不審者侵入防止や防犯のために校舎出入口に防犯カメラを設置し、校内を巡回する警備員を配置している点では、他校に比べて水準以上と思われます。

○校舎外における安全管理に対しては、学校・教員としては直接現場に向かい指導しにくいわけで、校舎内での生徒への普段の指導がどの程度できているかに関わることであります。生徒・保護者も一定の問題意識を感じているわけで、課題が提示されたときには迅

速な対応が求められるでしょう。

- 「登下校時の安全が確保されている」について教師の評価平均2.8、生徒の評価平均2.5、また「防犯カメラや巡回警備員は防犯の役に立っている」について教師の評価平均2.6、生徒の評価平均2.4となっているが、教師と生徒のとらえ方の違いがどこにあるのかを具体的に知ることも改善の方法です。
- 特に通学の安全管理について、安全指導のポイントが教員、保護者、生徒ともにやや低いのは、改善の余地があるのかもしれませんが。自転車での登校に関して、定期的に指導が必要であり、校外に出た教員の指導が求められているのかもしれませんが。
- とくにコメントすべきことはありませんが、いっそうの努力が期待されます。ただ、保護者による質問16「学校は、不審者の校舎侵入などに適切な対策を行っている」に対する回答などは少し評価が低いと感じられます。
- 校舎外における安全管理は、すべての項目において教職員・保護者・生徒ともに不安を感じさせる評価がなされています。リスクマネジメントの側面からもリスク要因の洗い出しが必要と思われます。

学校関係者による評価を受けての追加記述

学校内の安全管理においては、来年度より個人ロッカーに施錠することを義務づける。新入生には、学校が推奨する鍵を購入させる。校舎内のスクールアワー中の教員巡視も教室の施錠確認を中心に実施してゆく。

学校外の安全管理に関しては、本年度も実施した交通安全講習会を、5月に講師を招いて実施する予定である。なおかつ、登下校指導として教員が、校外に立てるように調整していく。

保護者に対しては、学校側が実施している指導方針や実際の指導がどのように行なわれているのかを機会があるたびに伝えていく。

学校評価シート

【キリスト教主義教育の実践】

現状の説明

「キリスト教主義教育の理念の共有」と「推進」に関しては、教職員・保護者・生徒ともに概ね大切なものと理解していると思っている。高等部教育の根幹の部分が理解され、自覚されていることはキリスト教主義教育を基礎におく高等部にとっては重要なことである。

評価・分析（アンケート結果を含む）

教員・保護者と生徒の間にはやや意識の差がある。アンケートの結果を見れば、思いのほか生徒の評価が低い。生徒が回答した肯定的な回答の割合は、55.3%（高等部の教育はキリスト教が土台になっている）、60.7%（礼拝の時間は大切である）、65.6%（聖書の言葉に共感できる）である。これは礼拝・聖書などの大切さを、年齢的にまだ理解しにくいという面が大きいと思うが、生徒に「言葉」が思っているようには届いていないという自覚を教員は持っている。ただ、前年は、高等部の教育はキリスト教が土台になっている 49%、礼拝の時間は大切である 55%、聖書の言葉に共感できる 58% であったので、昨年、挙げた具体的方策が実を結んできつつあるのではないかと考える。また、「学校外のキリスト教関連団体（教会・ボランティア）との連携・関心」についても生徒の自覚や関心が、相変わらず薄れており、27.4%（前年 26%）しか肯定的な回答をしていない。

改善の具体的方策

「キリスト教主義教育の理念の共有」と「推進」について、思いのほか生徒の評価が低いことに関しては、教会出席のあり方、出席方法など、更に検討を行い、これらの自覚や関心をもっと持てるように聖書科教員のみならず、全教員が協力しあうことで取り組んでいく必要があると考える。また、「学校外のキリスト教関連団体（教会・ボランティア）との連携・関心」についても、生徒の自覚や関心が薄れているのは、学友会役員、宗教部、子ども会などの生徒以外では、「キリスト教関連団体」との接点が少なく、それらを意識する機会が少ないことが一つの原因であると考え。チャペルにおいて、牧師・クリスチャンワーカーにメッセージを担当してもらい機会を増やしていくことを検討したい。

学校関係者による評価

- 生徒の評価が昨年にくらべ改善されている点は評価できます。今後、「改善の具体的方策」に記されているような具体的な対策が、確実に実践されることを期待します。
- 取り組みを評価します。
- キリスト教主義教育が学校の土台となっていること、礼拝、聖書への理解は三者において高く評価できます。一点その実践とも関わる「学校外部のキリスト教関連団体（教会、ボランティア）に関心を持っている」には肯定的な回答は 27.4%であるが、団体関係の情報量が本来少ないからではないか、今後の宗教教育活動の課題でもあります。
- 高等部生の礼拝に取り組む姿勢は、実際に自分も時折礼拝に参加させていただいて、年々改善が見られます。このまま全学年とも、より細かい指導をぜひ続けて欲しいと願います。また、外部でのボランティア活動にも、ぜひ生徒たちが積極的に参加する機会を与えられることを期待しています。
- キリスト教主義教育の実践について生徒の評価が低いことは「評価・分析」において指摘されており、抜本的な改善が望まれます。しかも、アンケート調査の結果をより詳細に見ると、質問 29「高等部の教育にとって、キリスト教はその土台であると思う」に関して、中学部出身者の評価がそれ以外の生徒と比べて明らかに低いことがわかります。

このことは、各学年について当てはまります。この点は早急に考えなければならないことではないでしょうか。キリスト主義教育の根幹にかかわる問題であると考えられます。
○ボランティア活動に関しては、長期休暇中に取り組む機会を設けることも必要ではないでしょうか。また大学との連携も必要ではと思われれます。

学校関係者による評価を受けての追加記述

「学校外部のキリスト教関連団体についての関心」で「団体関係の情報量が本来少ない」のではないかということについては認識している。来年度は、宗教活動実施費の使途を再検討し、外部講師（牧師・クリスチャンワーカー）のメッセージの機会を増やしていく予定となっている。

「中学部出身者の評価がそれ以外の生徒と比べて明らかに低いこと」についても把握しているが、中学部出身者がどこで評価をしているのかを、丁寧に検証する必要もあると認識している。

学校評価シート

【教科以外の生徒活動】

現状の説明

高等部は、関西学院大学への推薦入学を基盤とした学校であるので、教科の学習とともに、教科以外の教育活動の重要性は高く、それらの活動を通じて健全な人間性を身に付けさせることが大きな課題である。学友会(生徒会)、ホームルームを中心とした自治活動、スポーツ、文化活動などのクラブ活動を通して、協調性、社会性、礼節、忍耐力、問題解決能力などの涵養に努めている。

特にクラブ活動の分野では、全生徒の約 70%がクラブ活動に参加し、多くのクラブが全国大会で活躍するなど豊かな業績を挙げている。また、自治活動においても、文化祭などの行事が生徒の手によって自主的に運営され、豊かな成果を挙げている。さらに、これらの諸活動と学習活動が両立できることが、高等部の大きな使命であり、担任、クラブ顧問が連絡を密にしながら指導するように努めている。

評価・分析 (アンケート結果を含む)

まず、自治活動の分野では、教員 (87.8%)、生徒 (66.1%)、保護者 (77.5%) が、肯定的な評価を行っている。クラブ活動においては、教員 (97.6%)、生徒 (79.4%)、保護者 (91.6%) が、肯定的な評価を行っている。この結果から、これらの教育活動について、教員の側からも、生徒・保護者の側からも、学校の取組みについて充実感が高いことがわかる。

また、学習との両立については、「概ね両立できているか」という問いに対して、教員 (78.1%)、生徒 (66.9%)、保護者 (72.2%) が肯定的な回答をしており、全体的には「勉強との両立」が果たされていると思われる。しかし、生徒、保護者とも 30%前後が否定的な回答をしているということは、「両立」に関して、学校として今後とも注意して対処していかなければならない点であることを示している。

改善の具体的方策

自治活動、クラブ活動に関しては、高等部の教育の大きな特徴として、生徒・保護者にも受け入れられているので、これをさらに充実させ、更なる教育的成果を達成できるように一層取り組んでいくことが必要である。また、学習との両立に関しては、バランスが崩れないように注意を払いながら、綿密に指導していくことが必要であろう。その為には、クラブ活動と勉強の両立が十分でないと思われる生徒に対して、担任、顧問が協力して、学力補充の方策を図るようにしなければならない。

学校関係者による評価

- 自治活動、クラブ活動については概ね満足できる結果です。ただし、課外活動と学習の両立には問題もみられることから、今後も、補習などによる学力補充が継続して実施されることを期待します。
- 教科の学習とともに、教科以外の教育活動の重要性は高いと位置づけ、特に部活動には、全生徒の約 70%が、全国大会で活躍するなど豊かな業績を挙げている点は評価されます。自治活動とともに、学校への生徒の所属感を高めるのに貢献する活動であり、いっそうの指導の工夫が期待されます。とくに否定的な回答をしている生徒、保護者の考えをくみ取り、指導に生かすことが求められます。
- 自治活動、クラブ活動などの実践が、生徒・保護者・教師の三者から評価されています。この良さを一般外部に知らせる十分な広報活動も必要です。
- 高等部は、運動部、文化部共に、クラブ活動に対する生徒たちの積極的な取り組みが高く

評価できると思います。各部の人数が多いため、結果だけではなく、レギュラーになれずに三年間過ごす生徒たちへのケアも含めて、今後もより良い活動に期待しています。

○「評価・分析」において述べられていますが、教科以外の生活活動学習の両立はよく達成されていると考えられます。今後は否定的な回答をできるだけ少なくすることに力を注ぐことが期待されます。

○クラブ活動の成果に関し高く評価いたします。それには生徒はもちろん、保護者、そして先生方の努力の表れだと思います。また、生徒のクラブ活動の参加状況も刮目すべき値となっていると思います。

一方、クラブ活動に参加していない生徒は浮いた存在になっていないのかと気になります。学校の満足度など差異が生じていないのか気がかりです。

クラブ活動と勉強の両立がなされるように今後の方策に期待いたします。

学校関係者による評価を受けての追加記述

高等部のクラブ活動が、その教育的な価値について高く評価されていることは喜ばしいことと思う。今後もその内容を充実・発展させていけるように、学校としてのバックアップを継続していかなければならない。

その際、注意しなければならない点は、学校関係者評価でも指摘されているように、まず、一つは「学習との両立」という問題である。これについては、全体的なシステムで対処するのではなく、クラブ指導者が「両立」できるような配慮を十分に行い、個々のケースについては、顧問と担任・教科担当者が綿密に連携し、指導を行うことを目指すのがよいと考える。

二つ目は「クラブに参加していない生徒」の問題です。これについては、クラブ以外にどのような活動ができるか、学友会（生徒会）の活動、サークルの活動などを含めて推進することが望まれる。ただ、学校の施設面、教師のケアの量的限界があるので、無理のない範囲でそのような活動も支援していくことが必要である。

さらに、「レギュラーになれない生徒」への配慮についても、クラブ活動があくまでも教育の一環であると言う観点を堅持し、そのような生徒が充実感を持てるように、指導者が熟慮した指導を行うことが必要で、そのためには指導者間でアイデアを出し合うなど相互研修の機会があったほうがよいと考える。

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（高等部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通	学校全般 (追加項目)			1. 生徒は学校に行くのが楽しいと感じている。	3.4	1. 生徒は学校に行くのが楽しいと感じている。	3.4	1. 学校生活は楽しい。	3.2
				2. 高等部の教育は生徒・保護者に対し、満足感を与えている。	3.1	2. 保護者として、高等部の教育に満足している。	3.0	2. 高等部の教育に満足している。	2.7
共通	1. 教育課程・ 学習指導	教育課程についての教職員間の共通理解と連携	教員が教職課程の全体像を理解している。	3. 学校は、進級・推薦・卒業などに関する説明を適切に行っている。	3.3	3. 学校から進級・推薦・卒業などに関する説明を適切に受けている。	2.9	3. 学校から進級・推薦・卒業などに関する説明を適切に受けている。	2.9
			教務部を中心として教員は教育課程について連携を図っている	4. 教育課程の編成や実施について教務部を中心として連携を図っている。	3.1				
		生徒の学力・体力の的確な把握	外部テストの導入などにより、より客観的な学力把握に努めている	5. 教員は、外部テストなどを活用して生徒の学力を把握し、その後の指導に役立っている。	2.7	4. 学校は、生徒の学力・体力を的確に評価している。	3.0	4. 実力テスト・GTECなどの外部テストは、自分の学力分析やその後の学習に役立っている。	2.7
			教員は学力評価についての理解向上に努めている	6. 教員は、生徒の学力・体力の的確な評価に努めている。	3.1			5. 自分たちの学力・体力は的確に評価されている。	2.8
			教員は体力評価についての理解向上に努めている						
		各教科の特性に応じた授業の工夫	教員は自らが担当する教科の特性を理解している	7. 教員は、授業を通じ、生徒に適正な学力を定着させている。	3.0	5. 学校は、授業を通じ、生徒にしっかりした学力の定着を図っている。	2.7	6. 授業を通じ、学力がついている。	2.7
			より質の高い授業を目指して、教員は不断の研究を行っている	8. 教員は、質の高い授業を目指し、授業研究を十分に行っている。	3.0			7. 全体的にわかりやすい授業が多い。	2.5
		個々のニーズや興味関心に応じた授業展開	知的好奇心の喚起に留意した授業が行われている	9. 教員は、授業研究の成果を活かし、授業改善の工夫を行っている。	3.0	6. 学校は、補習・選択授業を通じ、生徒の個性・能力に応じた学びを展開している。	2.7	8. 興味深い内容のある授業がある。	2.9
			学齢に応じて選択授業が展開されている	10. 学校は、補習・選択授業を通じ、生徒の個性・能力に応じた学びを展開している。	3.0			9. 選択授業は充実している。	2.6
			補習など特別な学習機会が提供されている					10. 補習などは適切に行われている。	2.5

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（高等部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート				
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用
共通	接続学部との連携	初等部と中学部との連携がされている	11. 学校は、大学・学部に関する情報を生徒に適切に提供している。	3.2	7. 学校は、大学に関する情報を適切に提供している。	2.8	11. 大学に関する情報を知り、進路について考える機会がある。	2.8
		中学部と高等部の連携がされている	12. 高等部は、中学部と適切に連携を図っている。	2.4				
		高等部と大学の連携がされている	13. 高等部は、大学・学部と適切に連携を図っている。	2.5				
	学校生活の尊重	HR担任、クラブ顧問は、担当生徒の生活状況に細かく目を配る	14. 教員は、クラス担任・クラブ顧問として生徒とコミュニケーションを取り、生活状況などに配慮している。	3.2	8. 学校において、教師と生徒とのコミュニケーションが十分とれている。	2.7	12. 担任やクラブ顧問とのコミュニケーションが十分取れている。	2.7
		挨拶・時間厳守・美化等、学校生活の基本となる事柄を大切にす	15. 学校は、挨拶・時間厳守・美化など、学校生活の基本ルールを適切に指導している。	2.8	9. 学校は、挨拶・時間厳守・美化など学校生活の基本ルールを適切に指導している。	2.9	13. 挨拶・時間厳守・美化など学校生活の基本が適切に指導されている。	2.5
		礼拝・授業を大切にし、それに取り組み正しい姿勢の育成に努める	—	—				
	規範意識の涵養	守るべきルールとマナーを明示し、日々の指導をきめ細かくおこなう	16. 学校は、守るべきルールやマナーを明示し、日々の指導をきめ細かく行なっている。	2.5	10. 学校は、生徒が規則正しい生活が送れるよう指導している。	2.8	14. 守るべき学校生活のルールやマナーがはっきりしている。	2.4
		状況を弁え、周囲に配慮して行動できる、よき社会人の育成を図る	17. 学校は、状況をわきまえ周囲に配慮して行動できる、よき社会人の育成を図っている。	2.9			15. 学校は、不正やいじめを許さないよう指導している。	2.7
		不正を憎み、弱い者を守ろうとする、公正と思いやりの心を育てる	18. 学校は、不正やいじめを許さない強い姿勢を生徒に示している。	3.1				
	問題行動への対応	問題を早期に発見できるように教師間で情報を収集し、その共有を図る	19. 学校は、生徒の問題行動などの早期発見に努め、教員間で情報の共有を図っている。	3.1	11. 学校は、生徒のトラブルや問題行動などに対して、迅速かつ的確な対応をしている。	2.8	16. 学校は、問題やトラブルが起こった際、適切な対応をしている。	2.5
		問題行動に対して、迅速かつ平等性のある適切な指導・訓戒を行う	20. 学校は、生徒の問題行動などに対し、迅速かつ適切な指導を行っている。	3.0				
		教師・保護者間で情報交換と共通理解ができるよう普段から努める	21. 学校は、保護者との間で生徒に関する情報交換を適切に行っている。	2.9				

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（高等部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
共通	3. 安全管理	校舎内における安全管理	授業やクラブ練習などにおける安全管理ができています	22. 学校は、生徒が安全に活動できるように指導ができています。	3.1	—	—	—	—
			ケガなどが起こったときに適切な対応・応急処置ができています	23. 学校は、ケガなどが起こったときに適切な対応・応急処置ができています。	3.2	12. 学校は、生徒がケガをしたときに迅速かつ適切な対応をしている。	3.1	17. 学校は、ケガをしたときなどに迅速かつ適切な対応をしている。	2.9
			病気などが拡大しないように注意を払い、適切な対策が取れています	24. 学校は、病気などが生徒や教師に拡大しないように普段から心がけている。	3.2	13. 学校は、感染症が拡大しないように適切な指導や判断ができています。	3.1	18. 学校は、感染症が拡大しないように適切な指導や判断ができています。	2.8
		校舎外における安全管理	登下校時の安全指導ができています	25. 学校は、生徒の通学に対して、危険と思われる事柄に適切な注意ができています。	2.8	14. 学校は、登下校時、安全な通学に気を配っている。	2.6	19. 登下校時の安全が確保されている。	2.5
			クラブなどの対外的な試合などにおける安全管理ができています	26. 学校は、校外活動における安全指導について、適切な指導ができています。	2.9	15. 学校は、校外での活動において、生徒の安全をよく考えています。	2.7	20. 学校は、クラブ活動など校外での活動の際、生徒の安全に気を配っている。	2.7
			不審者の校舎内侵入に、適切な対応ができています	27. 監視カメラや巡回警備員は防犯の役に立っています。	2.6	16. 学校は、不審者の校舎侵入などに適切な対策を行っている。	2.5	21. 監視カメラや巡回警備員は防犯の役に立っています。	2.4
独自	保健管理	心身の管理	健康診断を実施し、適切な事後措置をとる	28. 学校は、健康診断結果の通知及び事後の指導・管理を適切に行なっている。	3.2	—	—	—	—
			健康相談を実施し、要観察者への継続観察と指導を行う	29. 養護教諭・カウンセラー・教員間で情報交換や連携を適切に図っている。	3.3	17. 学校は、生徒の心身の健康問題に対して、適切な対応をしている。	2.8	22. 学校には心身の健康について相談する場がある。	2.6
			学校における感染症を予防する	—	—	18. 学校は、事故・怪我・疾病への対応において、生徒が健康で安全な学校生活が送れるよう配慮している。	3.0	23. 学校は、怪我や体調不良の際、適切で迅速な対応をしてくれる。	2.8
		生活の管理	健康生活の実践状況を把握し指導する	—	—	—	—	—	—
		環境の管理	学校環境衛生検査を実施し、事後措置をとる	30. 学校は、定期的に学校環境衛生検査を実施し、必要に応じてその改善を図っている。	3.0	—	—	24. 学校からの保健便り等の保健衛生に関する情報や指導は役に立っている。	2.6

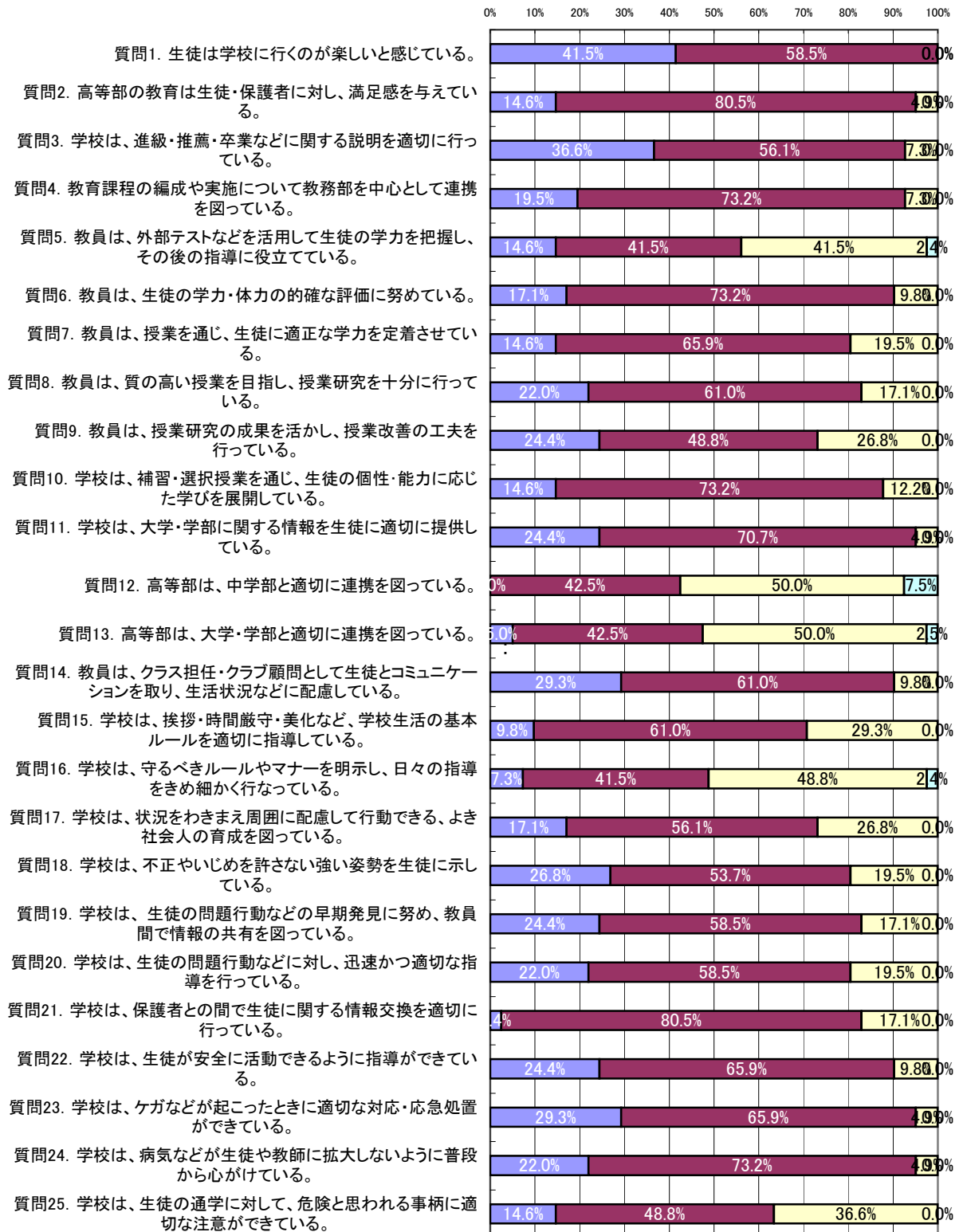
2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（高等部）

共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
独自	進路指導	適切な進路情報を提供し進路意識を高める	適切な進路情報を提供し、生徒の興味・関心を喚起し、進路に対する意識を高める	31. 学校は、進路講演会・学部説明会等を実施し、進路理解のための様々な情報を提供している。	3.3	—	—	25. 進路講演会・学部説明会等を聴いて、進路理解のための様々な情報を受けている。	2.8
				32. 学校は、保護者会、保護者面談等を利用し、定期的に進路情報を提供している。	3.2	19. 学校は、保護者会・保護者面談等を通じて、定期的に進路情報を保護者に提供している。	2.8	—	—
				33. 学校は、進路希望状況を適宜把握し、円滑に指導が進むように情報を提供している。	3.2	—	—	—	—
				34. 進路コーナーが設置され、進路情報誌や大学案内をはじめとする様々な情報を得ることが可能である。	2.9	—	—	26. 進路コーナーにある進路情報誌や大学案内によって、進路に関する様々な情報を得ることが可能である。	2.7
			適切な進路決定ができるような支援体制がある	35. 生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。	2.8	20. 学校は、生徒一人ひとりが自分の興味・関心・適性に応じた進路選択を行うことができるような指導を行っている。	2.8	27. 生徒一人ひとりが自分の興味・関心・適性に応じた進路選択を行うことができる。	2.7
				36. 計画的な指導体制が整い、それに従って指導がなされている。	2.8	—	—	—	—
			大学との連携・協力	37. 大学との連携・協力体制が整い、指導が行われている。	2.7	21. 学校は、学部説明会の実施やオープンキャンパスへの参加に関して、大学と連携・協力を図っている。	3.0	28. 学校は、学部説明会の実施やオープンキャンパスへの参加に関して、大学と連携・協力を図っている。	2.8
				38. 学校は、大学オープンキャンパスへの参加を促し、授業体験等を通じて学習意欲や目的意識を高める工夫をしている。	3.0	—	—	—	—

2010年度 学校評価アンケート結果一覧表（高等部）

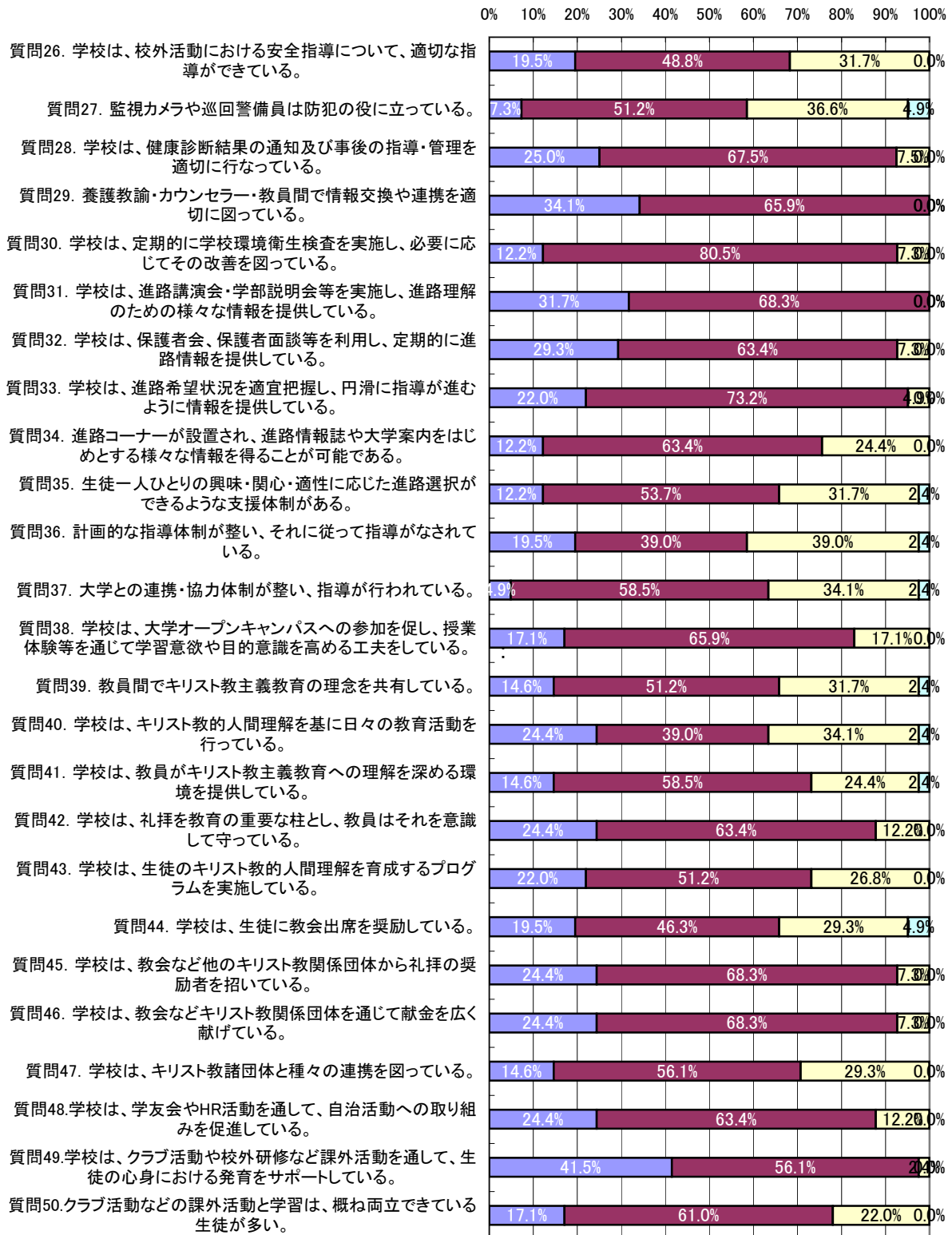
共通 / 独自	大項目	小項目	目標	アンケート					
				教職員用	平均点	保護者用	平均点	生徒用	平均点
独自	キリスト教主義教育の実践	キリスト教主義教育の理念の共有	教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している	39. 教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。	2.8	22. 学校が実施しているキリスト教主義教育は、子どもの人間的成長に寄与している	3.0	29. 高等部の教育にとって、キリスト教はその土台であると思う。	2.6
			キリスト教主義的人間理解を基に日々の教育活動を行っている	40. 学校は、キリスト教的人間理解を基に日々の教育活動を行っている。	2.9				
			教員がキリスト教主義教育への理解を深める環境にある	41. 学校は、教員がキリスト教主義教育への理解を深める環境を提供している。	2.9				
		キリスト教主義教育の推進	礼拝を学校の重要な柱として守っている	42. 学校は、礼拝を教育の重要な柱とし、教員はそれを意識して守っている。	3.1			30. 礼拝の時間は大切だと思う。	2.6
			生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムを実施している	43. 学校は、生徒のキリスト教的人間理解を育成するプログラムを実施している。	3.0			31. 聖書の言葉には共感できる部分がある。	2.7
			生徒に教会出席を奨励している	44. 学校は、生徒に教会出席を奨励している。	2.8			32. 学校外部のキリスト教関連団体（教会・ボランティア）に関心を持っている。	2.0
		キリスト教関係諸団体との連携	教会など他のキリスト教関係団体から礼拝の奨励者を招いている	45. 学校は、教会など他のキリスト教関係団体から礼拝の奨励者を招いている。	3.2				
			教会などキリスト教関係団体を通じて献金を広く献げている	46. 学校は、教会などキリスト教関係団体を通じて献金を広く献げている。	3.2				
			キリスト教諸団体と種々の連携を図っている	47. 学校は、キリスト教諸団体と種々の連携を図っている。	2.9				
		独自	教科以外の生徒活動	課外活動の充実	生徒会やHR活動を通じて自治活動を実践し、その意義を高める			48. 学校は、学友会やHR活動を通して、自治活動への取り組みを促進している。	3.1
クラブ活動や校外研修などの課外活動を充実させる。	49. 学校は、クラブ活動や校外研修など課外活動を通して、生徒の心身における発育をサポートしている。				3.4	24. 生徒は、クラブ活動や校外研修など課外活動を通して、心身共に健全な発育をしている。	3.3	34. クラブ活動や校外研修など課外活動を通して、多くのことを学んでいる。	3.0
クラブ活動などの課外活動と学習を両立させる	50. クラブ活動などの課外活動と学習は、概ね両立できている生徒が多い。				3.0	25. 生徒は、クラブ活動などの課外活動と学習を概ね両立できている。	2.9	35. クラブ活動などの課外活動と学習は概ね両立できている。	2.8

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(高等部・教員 質問1～25)



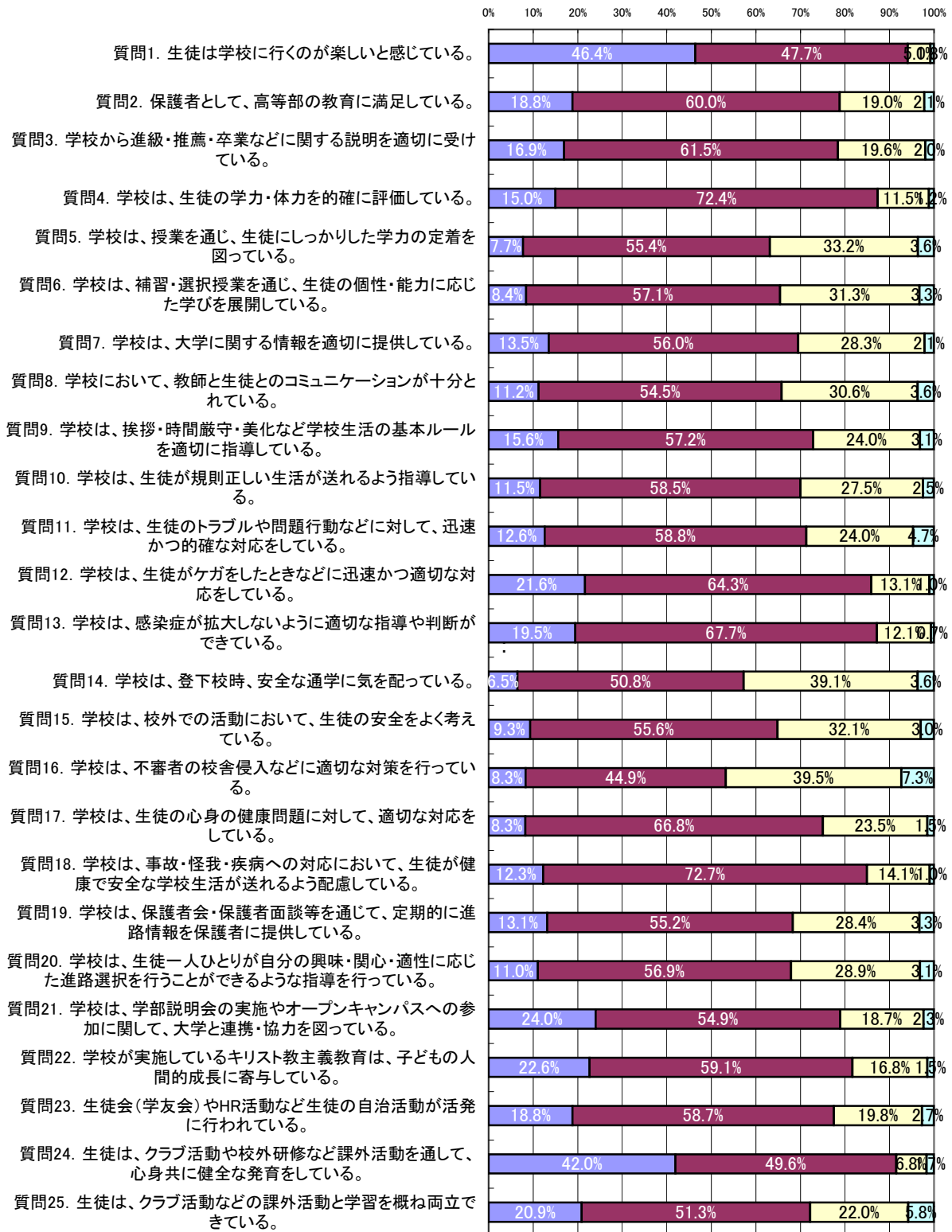
回答番号1: 強く思う(4点)
 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
 回答番号3: あまりそう思わない(2点)
 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(高等部・教員 質問26～50)



■ 回答番号1: 強く思う(4点) ■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)
□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点) □ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(高等部・保護者)



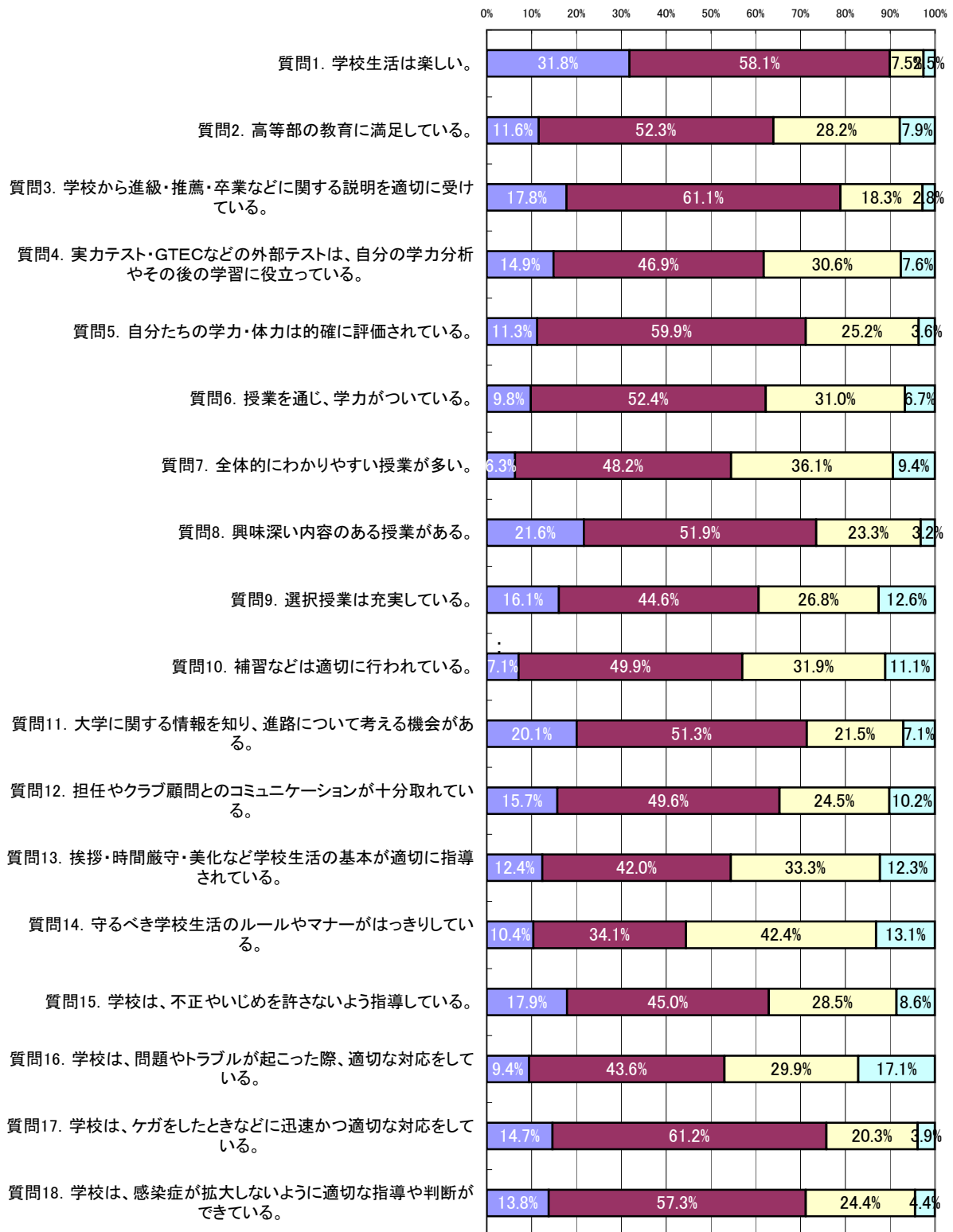
■ 回答番号1: 強く思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

□ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(高等部・生徒 質問1～18)



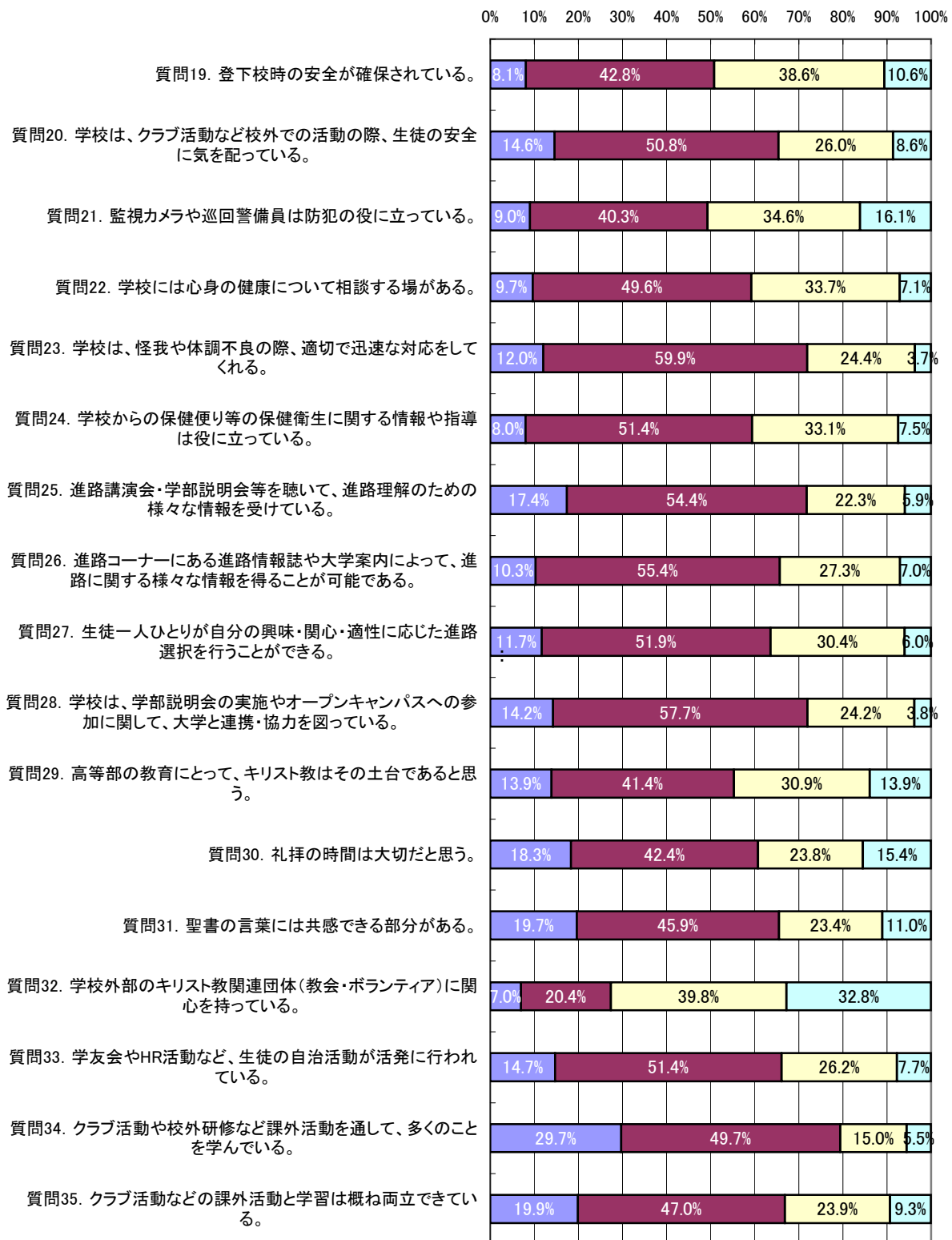
■ 回答番号1: 強く思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえば思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

□ 回答番号4: まったくそう思わない(1点)

2010年度 学校評価アンケート集計結果
(高等部・生徒 質問19～35)



■ 回答番号1: 強くそう思う(4点)

■ 回答番号2: どちらかといえばそう思う(3点)

□ 回答番号3: あまりそう思わない(2点)

□ 回答番号4: まったくそう思わない(4点)